

「口号」(スローガン)・中国・「抗日戦争勝利 70 周年」

山本 賢二*

現在の中国において「口号」(スローガン)は・・・月間、・・・週間、・・・記念日、・・・周年などに宣伝部によってつくられ下達される官製のスローガンと民間のデモ行進などに現れる非官製のスローガンがある。これより以前、中国共産党が政権を奪取する前の革命闘争期、建国後の政治闘争時においては「闘争」の道具としてスローガンが利用されてきたことは周知のことである。

劉少奇は 1928 年 10 月「スローガンの変転について」(論口号的轉變 1928. 10. 5)と題した一文において、情勢の変化に合わせてスローガンを転換させる必要性を説く中で、その機能について「大衆のあらゆる闘争の中で、スローガンの役割は極めて大きい。それは闘争中の大衆の要求と需要を含み、それは大衆の精神を特に奮い立たせ、特に一致させ、強力な行動を生み出す。」とすると同時に、「スローガンは異なる性質を持つ。宣伝のスローガン、煽動のスローガン、行動のスローガンがある。行動のスローガンは最終的に指令となる。割りと長期にわたる闘争の任務を代表するスローガンは全て宣伝から煽動、行動に至るステップを経るものである。」と指摘し、「没收地主土地、建立工农兵苏维埃政权、打倒帝国主义」,「(工場) 增加工资、改良待遇、八小时工作」などのスローガンを例示している。劉の指摘に基づけば、「没收地主土地」を例にすると、そのスローガンは当初「宣伝」であったが、徐々に組織化への「煽動」となり、さらにそれは「行動」を喚起するようになり、ついには「地主から土地を没収せよ」という「指令」に変わるというものである。

これは革命闘争期のスローガンの「役割」を述べたものではあるが、現在においてもある種のスローガンは「宣伝」から「煽動」へ、さらには「行動」を喚起し、その実現を「指令」という普遍的機能を備える。

1. 「抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利 70 周年」の「口号」(スローガン)と習近平のスピーチ

中華人民共和国にとって 2015 年は「抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利 70 周年」にあたり、メディアを動員してその「勝利」を記念する宣伝が行われた。

特に 9 月 3 日の戦勝記念日に向けて、中国共産党は下記の 22 の「口号」(スローガン)を作り、宣伝部を通じて全国に伝達した。

- (1) 铭记历史、缅怀先烈、珍爱和平、开创未来!
- (2) 隆重纪念中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争胜利 70 周年!

- (3) 中国共产党是中国人民抗日战争的中流砥柱！
- (4) 兵民是胜利之本！
- (5) 在中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争中牺牲的英烈们永垂不朽！
- (6) 深切怀念在抗日战争时期牺牲和殉难的同胞们！
- (7) 深切怀念在世界反法西斯战争中牺牲和殉难的人们！
- (8) 向一切为中国人民抗日战争和世界反法西斯战争胜利作出贡献的国家和人民致敬！
- (9) 中国人民抗日战争胜利万岁！
- (10) 中华民族大团结万岁！
- (11) 世界反法西斯战争胜利万岁！
- (12) 世界人民大团结万岁！
- (13) 以史为鉴、面向未来！
- (14) 坚定不移走和平发展道路！
- (15) 努力建设一支听党指挥、能打胜仗、作风优良的人民军队！
- (16) 中国是世界和平的坚决倡导者和有力捍卫者！
- (17) 各国人民携手努力，建设一个持久和平、共同繁荣的和谐世界！
- (18) 弘扬伟大抗战精神，不断夺取中国特色社会主义新胜利！
- (19) 大力弘扬抗战精神，积极倡导天下兴亡、匹夫有责的爱国情怀，视死如归、宁死不屈的民族气节，不畏强暴、血战到底的英雄气概，百折不挠、坚忍不拔的必胜信念！
- (20) 全面建成小康社会、全面深化改革、全面依法治国、全面从严治党！
- (21) 矢志不渝沿着中国特色社会主义道路奋勇前进！
- (22) 紧密团结在以习近平总书记为总书记的党中央周围，为实现“两个一百年”奋斗目标、实现中华民族伟大复兴的中国梦而奋斗！

上記 22 のスローガンのうち、習近平の「中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利 70 周年記念大会」におけるスピーチ（中国語原文と日本語訳後掲）の中で、そのまま引用されたのが「(1) 铭记历史、缅怀先烈、珍爱和平、开创未来！」だけであり、その中国側の日本語訳は「歴史を銘記し、烈士たちのことを思い偲び、平和を大切にして、未来を切り開く」（新華網日本語チャンネル）である。また、「(2) 隆重纪念中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争胜利 70 周年！」は「隆重」の一語彙が削除され、前述の (1) のスローガンを受ける形で「我们纪念中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争胜利 70 周年，就是要铭记历史、缅怀先烈、珍爱和平、开创未来。」（中国側訳「我々が中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利 70 周年を記念する目的は、まさに歴史を銘記し、烈士たちのことを思い偲び、平和を大切にして、未来を切り開くことです。」）とされている。

そして、中国の抗日戦争の歴史に対する中国共産党の「解釈」である「(3) 中国共产党是中国人民抗日战争的中流砥柱！」（「中国共産党は中国人民抗日戦争の中核である。」）は挿入されていなかった。習のスピーチは主に「中国人民」（「中国人民」）と「中国人民抗日戦争」（「中国人民抗日战争」）を主語にして組み立てられていたのである。そして、2 段目にある「中共中央」以外、「中国共産党」は最後のくだりに、「前進する道のりにおいて、全国各民族人民は中国共産党の指導の

下で、・・・」という表現があるだけであり、極力「党色」を抑えた内容であった。(ちなみに、台湾の馬英九総統は9月2日に開かれた「中華民国抗戦勝利 70 周年記念および民国 104 年軍人節表彰大会」でのスピーチで「歴史の真相はただ一つである。抗戦は国民政府蔣中正委員長が全国軍民を指導し刻苦奮闘した成果である。」(「歴史真相只有一个, 抗戰是國民政府蔣中正委員長領導全國軍民艱苦奮鬥的成果。」)(中国語原文後掲)と語っている。)

また、軍について、習は「中国人民解放軍は人民からなる軍隊で、全軍の将士は全身全霊に人民に奉仕するという根本的な宗旨を心に刻み、祖国の安全と人民の平和な生活を守るという神聖なる職責を忠実に全うし、世界平和を守るという神聖なる使命を忠実に遂行しなければなりません。ここで、中国は兵力の定員を 30 万人削減することを、宣言いたします。」としている。この新華社の日本語訳の「中国人民解放軍は人民からなる軍隊で、・・・」の原文は「中国人民解放軍是人民の子弟兵,・・・」であり、筆者は従来から「人民解放軍は人民の子弟兵であり、・・・」と訳してきた。というのは、これは人民解放軍を親しみを込めて呼ぶときに使う表現であるからである。また、あくまでも「人民」の「子弟兵」ということであって、「人民からなる軍隊」という意味とは根本的に異なるからでもある。これに付け加えれば、それはすでにスローガンと言える程、一般的に使われてきていたからでもある。さらに、スピーチ全体の構成から見ると、本来、格調高く、歴史の検証に耐えるべきものを、ここで「兵力の定員」の「30 万人削減」を「宣言」したことは極めて唐突である。明らかに日本を含む西側各国の首脳の出席が無かったことの意味(中国の軍拡と軍事パレードに対する西側の「疑念」)を、中国共産党が十分理解していた証佐であろう。

もとより、党国体制にあるとはいえ、人民解放軍は中国共産党の軍隊であり、中華人民共和国という国家に属するものではない。周知のように、民主主義国の軍隊は国家に属するもので、一政党に属するものではない。それゆえ、軍事政権ならいざ知らず、この軍事パレードを天安門楼上から巡閲すべきは各「国」の首脳ではなく、中国共産党と友党関係にある政「党」の代表であるべきものである。

そして、習はスピーチの最後に「正義は必ず勝ちます！平和は必ず勝ちます！人民は必ず勝ちます！」(「正義必胜！和平必胜！人民必胜！」)という呼びかけで締めくくっている。これなどはスローガンと言ってもよいであろう。「・・・必胜！」は「自由必胜！」(「自由は必ず勝ちます！」)、「民主必胜！」(「民主は必ず勝ちます！」)、「憲政必胜！」(「憲政は必ず勝ちます！」)などのスローガンに転用され得る表現であろう。

2. 非官製対日スローガン

こうした官製スローガンのほか、ネット上には様々な対日スローガンが見られる。

例えば、www.cnrencai.com (2015-08-07) には「抗戦勝利 70 周年標語」(「抗战胜利 70 周年标语」)と題して下記のようなスローガンがアップされている。

- (1) 钓鱼岛自古以来就是中国固有领土！

- (2) 中国领土主权坚决不容侵犯！
- (3) 健全国防动员体制，加强民兵预备役建设！
- (4) 全世界华人团结起来，组成爱国的铜墙铁壁！
- (5) 坚决捍卫二战胜利果实，维护战后国际秩序！
- (6) 坚决拥护和支持我国政府的严正立场！
- (7) 日本人必须从钓鱼岛上滚出去！
- (8) 牢记历史血债，自愿抵制日货！
- (9) 牢记“九一八”！勿忘国耻！
- (10) 抗日战争胜利万岁！伟大的中国人民解放军万岁！
- (11) 勿忘八年抗战流血牺牲，牢记南京大屠杀死难同胞！
- (12) 坚决捍卫国家主权和领土完整！
- (13) 全世界人民大团结万岁！
- (14) 时刻警惕日本右翼势力复活军国主义！
- (15) 八年抗战华夏儿女同仇敌忾，拯救民族危亡军民视死如归！
- (16) 任何侵略者不会有好下场！
- (17) 誓死捍卫中华民族的神圣尊严！
- (18) 坚决打倒法西斯主义！坚决捍卫波茨坦公告！
- (19) 坚持科学发展，建设富强国家！
- (20) 有钱出钱，有物出物，坚决保卫钓鱼岛！
- (21) 不给日本打工，自愿抵制日货！
- (22) 坚决保卫世界反法西斯战争的胜利成果！
- (23) 日本政府购岛是侵略行径！
- (24) 爱我中华，强我国防！警惕侵略者，防止野心豺狼！
- (25) 建立强大的人民海军！加强巡海维权行动！
- (26) 海峡两岸同胞团结起来，共同捍卫中国领土主权！
- (27) 加强海洋维权巡逻，坚决捍卫中国钓鱼岛主权！
- (28) 加强军队反腐，加强人民军队建设，做到能打仗，打胜仗！
- (29) 军民团结如一人，试看天下谁能敌！
- (30) 加强军训演习！时刻准备消灭敢于来犯之敌！

上掲の30のスローガンは(1)「釣魚島は古来より中国固有の領土である！」(2)「中国の領土主権は断固侵犯を許さない！」(3)「国防動員体制を健全にし、民兵予備役建設を強化しよう！」(4)「全世界の華人は団結し、愛国の鉄壁をつくろう！」(5)「第二次世界大戦の勝利の果実を断固守り、戦後の国際秩序を擁護しよう！」など比較的「穏健」な表現であり、(9)「9.18をしっかりと銘記しよう！国辱を忘れるな！」などの「定番」もある。また(19)「科学発展を堅持し、富強の国家を建設しよう！」、(28)「軍隊の反腐敗を強化し、人民の軍隊建設を強化し、戦え、勝つ戦いを実現しよう！」など直接日本とは関係のないものもある。

同サイトはまた過激な表現を含む次のようなスローガンもアップ (2015-07-29) している。

- (1) 莫忘国耻，振兴中华！
- (2) 七七事件，血雨腥风，永志不忘！
- (3) 倭寇来袭，昨天之耻！
- (4) 禽兽刚走，伤疤刚癒，奇耻大辱怎能忘！
- (5) 擒贼寇，饮其血，方解我恨！
- (6) 不悔过，参拜靖国神社，贼心不死！
- (7) 欲夺我钓鱼岛，狗吃屎本性难改！
- (8) 八年抗战，浴血奋战，教训不可忘！
- (9) 与小日本亲和者，乃我敌人！
- (10) 与贼寇和亲，卖国之举！
- (11) 旅游日本，为贼寇捐资，卖国之行！
- (12) 购日本货，为日寇捐款，卖国之举！
- (13) 依法抗日，不如灭个龟儿子！
- (14) 打倒日本帝国主义！
- (15) 愿意抗日的人万岁！

(1) 「国辱を忘れず、中華を振興しよう！」などは「普通」のスローガンであるが、(2) 「7・7 事件、血の雨生臭い風、いつまでも忘れない!」、(5) 「賊寇を捕まえ、その血を飲んで、始めてわが恨みは解消する!」などは前掲のスローガンよりかなり露骨である。また、「小日本」はまだしも、日本を「倭寇」、「禽兽」、「贼寇」、「日寇」などで表現している。さらに、(9) 「日本人と親しくする者はわが敵である!」、(11) 「日本への旅行は、盗人に資金を提供するもので、売国の旅である!」、(12) 「日本製品を買い、日寇に寄付する、売国の挙である!」など自国人に対する「警告」型のスローガンもある。

また、同サイトは 2012 年 9 月の反日デモで使われたスローガンも集め、「抗日デモ行進經典スローガン」(「抗日游行示威經典口号」) (2015-07-29) として下記のように五つに分類、紹介している。

捍卫主权派 (主權擁護派)

- (1) 钓鱼岛是中国的，国家主权不容侵犯。
- (2) 保卫钓鱼岛，捍卫国家主权。
- (3) 钓鱼岛是中国的，苍井空才是日本的。
- (4) 捍卫主权，扬我国威！
- (5) 钓鱼岛 妈喊你回家过节了——海南岛。

激进歼灭派（急進殲滅派）

- (1) 小日本，二战罪人，厚颜无耻。
- (2) 核灭日本野狗，铲除民族后患。
- (3) 强烈要求我军向侵略者开战！日本必亡！！坚决抵制日货！抗日爱国！勿忘国耻！振兴中华！
- (4) 小日本滚出去，严惩汉奸卖国贼。

主动请缨派（主体的に戦場に赴く派）

- (1) 十亿青年十亿兵，国耻岂待儿孙平。
- (2) 万里长城十亿兵，越马扬刀入东京。
- (3) 宁可大陆不长草，也要守住钓鱼岛。

方言泄愤派（方言で憤りを発散する派）

- (1) 日你先人板板！
- (2) 小鬼子在俺们这嘎达舞舞扎扎的，瘪犊子脑瓜子给你削碎乎喽！

理性抗议派（理性的抗議派）

- (1) 反对暴力，理性爱国。
- (2) 化愤怒为力量，要政改，要自强。
- (3) 化爱国为智慧，要文明要理性。
- (4) 国共合作收复钓鱼岛。
- (5) 中国很生气，后果很严重。胜利 70 周年活动目的是铭记历史

以上の中では「急進殲滅派」と「主体的に戦場に赴く派」に分類されたスローガンが「刺激的」である。前者の(2)「日本という野犬を核で消滅させ、民族の後顧の憂いを除去しよう!」、後者の(2)「万里の長城十億の兵、武力で東京に入ろう!」など過激さが目立つ。また、「理性的抗議派」の(1)「暴力に反対し、理性をもって国を愛そう!」、(2)「怒りを力に変え、政治改革をやり、自強を目指そう!」、(4)「国共合作で釣魚島を取り戻そう!」などはまさに「理性的」範疇に入るであろう。

こうした日本を対象にした種々の非官製スローガンの中には劉のいう宣伝—煽動—行動—指令をたどる可能性のあるものもある。しかし、そのスローガンが機能するためには必ず組織者の存在が必要になる。そして、その組織者が誰になるのかが問題なのであるが、誰になろうともそれを最終的に認知するのは「暴力装置」をもつ中国共産党なのである。

そして、こうした非官製スローガンと比べると、官製の 22 のスローガンがいかに抑制されたものかが理解できよう。ただ、非官製スローガンをネットから削除しようとすればできるのも中国共産党である。

3. 張文和、李艷編著『スローガンと中国』

筆者の手許に『スローガンと中国』(張文和、李艷編著『口号与中国』中共党史出版社 1998.2)と題する本がある。同書はスローガンに基づいて中華人民共和国の歩みを描いている。その中で取り上げられたスローガンは以下の 26 項目である。

- (1) 中国人民站起来
- (2) 抗美援朝，保家卫国
- (3) 为巩固下新民主主义制度而奋斗
- (4) 打退资产阶级的猖狂进攻
- (5) 阶级消灭，个人愉快
- (6) 百花齐放，百家争鸣
- (7) 向科学进军
- (8) 轮流坐庄
- (9) 要反对右倾保守，也要反对急躁冒进
- (10) 鼓足干劲、力争上游、多快好省地建设社会主义
- (11) 大跃进
- (12) 人民公社好
- (13) 人有多大胆，地有多大产
- (14) 千万不要忘记阶级斗争
- (15) 独立自主，自力更生
- (16) 工业学大庆
- (17) 农业学大寨
- (18) 备战、备荒、为人民
- (19) 活学活用，学用结合，急用先学，立竿见影
- (20) 横扫牛鬼蛇神
- (21) 造反有理
- (22) 文攻武卫
- (23) 广阔天地，大有作为
- (24) 抓革命、促生产
- (25) 按既定方针办
- (26) 实践是检验真理的唯一标准

上掲のスローガンを説明できれば中華人民共和国の歴史に関する基礎知識があると言える。中華人民共和国建国を宣言した(1)「中国人民は立ち上がった!」、朝鮮戦争時の(2)「抗美援朝、国家防衛」、「三反五反」運動時の(4)「ブルジョア階級の狂気の進攻を撃退しよう」、「三面紅旗」期の(10)「大いに意気込み、高い目標を目指し、多く、速く、立派に、無駄なく社会主義を建設しよう」、人民公社を称賛した(12)「人民公社は素晴らしい」、毛沢東のことばの(14)「決して階級闘

争を忘れてはならない!」、中ソ対立を象徴した(15)「独立自主、自力更生」、文革期の(20)「妖怪変化を一掃しよう」、(21)「造反有理」、毛死去後の(25)「既定の方針に従って行おう」、毛沢東思想再考とすべて派一掃時の(26)「実践が真理を検証する唯一の基準である」などそれぞれの時代を反映している。

これ以外に、筆者がこれまでによく触れてきた懐かしいスローガンを一部挙げると下記のようなものがある。

- ・“枪杆子里面出政权”(鉄砲から政権が生まれる)、“星星之火，可以燎原”(小さな火花も荒野を焼き尽くすことができる)、“没有调查，没有发言权”(調査無くして、発言権無し)、“人不犯我，我不犯人；人若犯我，我必犯人”(人が自分を侵さなければ、自分も人を侵さない。人が自分を侵すなら、自分は必ず人を侵す)、“一切反动派都是纸老虎”(すべての反動派は張子の虎である)、“以阶级斗争为纲”(階級闘争をカナメとする)、“全世界人民团结起来，打败美帝国主义及其一切走狗”(全世界の人民は団結して米帝国主義とその手先を打倒しよう)、“向雷锋同志学习”(雷鋒同志に学ぼう)、“团结起来，争取更大的胜利”(団結してより大きな勝利を勝ち取ろう)、“一不怕苦，二不怕死”(一に苦しみを恐れず、二に死を恐れない)、“下定决心，不怕牺牲，排除万难，去争取胜利”(決意を固め、犠牲を恐れず、万難を排して、勝利を勝ち取ろう)、“稳定压倒一切”(安定がすべてに優先する)、“没有共产党，就没有新中国”(共産党が無ければ、新中国は無い)、“为人民服务”(人民に奉仕する)、“四化建设”(四つの現代化建設)、“科学技术是第一生产力”(科学技術が第一の生産力)、“坚持四项基本原则”(四つの基本原則を堅持しよう)、“一个中心，两个基本点”(一つの中心、二つの基本点)など。

また、“三个代表”(三つの代表)は江沢民、“和谐社会”(調和の取れた社会)、“科学发展观”(科学的発展観)は胡錦濤時代を象徴するスローガンであるし、現在の習近平時代を代表するのは“中华民族伟大复兴”(中華民族の偉大な復興)、“中国梦”(中国の夢)、“两个一百年”(二つの百年)、“一带一路”(一帯一路)などである。

4. スローガン「毛主席万歳」(「毛主席万岁」)について

中華人民共和国建国以来のスローガンには毛沢東の言葉が少なくない。それは毛が中国革命の象徴であり、建国後もカリスマとして絶大な権力をもつとともに、「階級闘争」という名の下で政治闘争を繰り返して指導してきたことによる。その毛に対する個人崇拜を促進したスローガンに「毛主席万歳」がある。毛沢東が死去し、「四人組」が追放され、鄧小平の下で改革開放政策が実施され30年以上たった現在でこそ、このスローガンは叫ばれなくなり、「標語」(「标语」)としてもあまり見かけなくなったが、かつては「毛主席万歳」が叫ばれ、都市や農村の壁にはいたるところそれが書かれていた。

しばらく前、この「毛主席万歳」の毛沢東自書説の真偽をめぐって、「論争」が行われた。その「経緯」を紹介した『「毛主席自ら万歳というスローガンを書いた」とするデマと真相』(「毛泽东自写万岁」口号的谣言与真相) <http://www.dooo.cc/2015/02/34279.shtml> と題する呉法天の一文は「1950年4月27日の人民日報の一面トップに掲載された中共中央の『5・1メーデー祝賀スロー

ガン』(「庆祝五一劳动节口号」)には『毛主席万歳』というスローガンは無かった。もともと『毛主席万歳』はあったが、原稿査読時に、スローガンの原稿の査読の責任を主に負っていた劉少奇が『偉大な中国人民の領袖毛沢東同志万歳』に書き改め、毛主席に査読送付したが毛主席もそれを改めなかった。」という結論を冒頭に示し、朱徳の秘書であった陳友群が1980年に語り、李鋭が2003年に「毛沢東をいかに見るか」(「如何看待毛泽东」)などの中で指摘し、郭道暉が『炎黄春秋』2010年4期に書いた「党史に対する一度の民主大評議」(「对党史的一次民主大评议」)と題する一文などで、それぞれ「毛主席が最後に自ら毛主席万歳を書き加えた」としていることを否定した。

否定した根拠として同文が引用したのは中央文献研究室第一編研部副主任張素華の説明である。その張は、郭道暉の『炎黄春秋』2010年4期の一文に対し、1950年の原資料を調べたが、初稿は胡喬木によって書かれ、それには「毛主席万歳」があったが、査読した劉少奇がその「毛主席万歳」を「偉大な中国人民の領袖毛沢東同志万歳」に改めたとしている。(張素華「毛泽东没有“五一口号”中加写“毛主席万岁”」『炎黄春秋』2010年7期)

これに対し、郭道暉は「『万歳』スローガンの私見」(「“万岁”口号之我见」『炎黄春秋』2010年8期)の中で、郭自身が引用したのは「中央直属機関の歴史決議(草稿)討論簡報第五組第32号(1980年11月17日)に掲載された陳友群の発言」であるとすると同時に、「『万歳』のスローガンが党中央の五一メーデーのスローガンに正式に組み込まれたことは毛沢東自らが査読黙認したものであるから、『万歳』を叫ぶことは彼の承認同意を得たものであることを明らかにしている。」と指摘している。

また、李鋭も「『毛主席万歳』というスローガンについて」(「关于“毛主席万岁”这个口号」『炎黄春秋』2010年8期)の中で、張の一文は陳友群の発言内容を否定しているが、それが掲載された「簡報」については「説得力のある分析」を行っていないとし、公文書を根拠としている張に対し、彼女が「見た胡喬木のこの草稿は恐らく最も原初のものではないであろう。この草稿の前に、準備過程があったのかどうか。準備過程の中で、胡喬木と毛沢東の間に文字による交流があったのかどうか。これらは研究が必要である。しかし、一点肯定できることは、毛沢東は往時、人に『万歳』と叫ばせたことである。」と指摘している。

毛沢東と胡喬木の関係を考えると李の指摘も当たっているのかもしれないが、すでにこの世を去った胡喬木に聞く術もなく、「事実」は依然、霧の中にある。

「毛主席万歳」というスローガンはその後、中国全体を包むかのようにいたるところで叫ばれ、その頂点がプロレタリア階級文化大革命になる。毛沢東に対する個人崇拜無くして文革は起きなかったであろう。「毛主席万歳」と叫ぶ紅衛兵に対し天安門楼上で毛沢東語録を掲げてこれに応えた毛の姿を思い出すと、毛が彼自身に対する個人崇拜を余すところなく利用してきたことが分かる。

5. 89 民主化運動時の「スローガン」

「万歳」といえば、1989年の民主化運動時に現れたスローガンにもそれが付くものがあった。例えば、「自由万歳」(自由万岁)、「民主万歳」(民主万岁)、「人民万歳」(人民万岁)、「民主共和万

歳」(民主共和万岁)などである。この四つのスローガンだけでも当時の民主化運動の本質を理解できるのではないだろうか。

この1989年の中国民主化運動時に現れたスローガンを陳小雅は「誰が89民主化運動の『合法的継承者』か?—89民主化運動の『四大スローガン』およびその変遷」(「誰是八九民運的“合法繼承人”?——八九民運的“四大口號”及其流變」)と題する2002年4月28日付の一文(www.64memo.com/b5/1592_2.htm)の中で、次の四種類に分類、例示し、陳らが定義する「意見表明運動」の求めたものを分析している。(ここでは例示されたスローガンの一部のみを引用した。)

(1) 改革開放関係

① “正確評價胡耀邦同志”；“為胡耀邦平反”(「胡耀邦同志を正しく評価しよう」、「胡耀邦のために名誉回復しよう」)(胡耀邦追悼會前各地悼念口號)

② “反對反自由化，反對反精神污染”(「反自由化に反対し、反精神汚染に反対しよう」)(北京，4、19 遊行標語)

③ “改革正處在危難中……象莫斯科市民支持葉利欽那樣支持我們的改革家”(「改革は危機の中にある・・・モスクワ市民がイエリツィンを支持したようにわれわれの改革者を支持しよう」)(上海，4、19 遊行標語)

④ “民主+改革=現代化”(「民主プラス改革は現代化である」)(中國人民大學，4、27 遊行口號)

⑤ “老的不退出來，新的就進不去”(「古い者が退場しなければ、新しい者が入れない」)(中央財政金融學院，4、27 遊行標語)

⑥ “爭取煤電的地方利益”(「石炭電力の地方の利益を勝ち取ろう」)(山西，5、4 遊行標語)

.....

(2) 民主法治関係

① “新聞界公開報道學生運動；釋放魏京生；政府就政策上的失誤向人民檢討；”(「報道界は学生運動を公に報道せよ」、「魏京生を釈放せよ」、「政府は政策上の誤りについて人民に反省せよ」)(北京大學，4、17《七條》内容)

② “自由萬歲，民主萬歲”(「自由万歳、民主万歳」)(北京，4、27 遊行共同口號)

③ “人民萬歲”；“新聞要講真話”。(「人民万歳」、「報道は本当の話をせよ」)(北京，4、27 遊行共同口號)

④ “憲法至上”；“堅決維護憲法權威”；“堅決維護憲法尊嚴”(「憲法至上」、「憲法の權威を断固擁護しよう」、「憲法の尊嚴を断固擁護しよう」)(北京大學，4、27 遊行口號)

⑤ “人民利益高於一切”(「人民の利益は全てに勝る」)(北京航空航太大學，4、27 遊行標語)

⑥ “人民有知情權、參政權、監督權、批評權”；“捍衛新聞真實，保護言論自由”(「人民には知る権利、參與權、監督權、批判權がある」、「報道の真實を守り、言論の自由を保護しよう」)(北

京, 5、4 新聞界遊行口號)

⑦ “我們要有一個自由平等, 享有人權的中國”; (「我々は一つの自由平等で、人権を享受する中国をもとう」)(南京《五四宣言》)

⑧ “和平解決西藏問題”(「チベット問題を平和的に解決しよう」)(青海民族學院, 5、4 請願標語)

⑨ “外保球籍, 内爭人權”, “政治公開, 新聞自由”(「外ではグローバル社会の一員を保ち、内では人権を目指そう」)(天津, 5、4 遊行標語)

⑩ “實行大選, 修改憲法, 聲援學生, 推進民主”; “報禁不除, 官倒難除”; “愚民政策, 該收場了”(「普通選挙を実施し、憲法を改正し、学生を支援し、民主を推進しよう」, 「報道禁制を無くさなければ、官僚の横流しは無くならない」)(北京《文藝報》, 5、16 遊行口號)

⑪ “立即召開全國人民代表大會, 對政治局最近一段時期的工作進行審議”(「全国人民代表大会をすぐに招集し、政治局の最近における活動に対し審議を行おう」)(“三所一會”, 5、19《關於時局的六點聲明》)

⑫ “民主必勝人民必勝, 抗議暴政浴血真理”(「民主は必ず勝利し、人民は必ず勝利する、暴政に抗議し、真理に血を流そう」)(北京, 5、20 遊行標語)

.....

(3) 社会公平関係

① “提高知識分子待遇”; “科學理順物價”(「知識分子の待遇を引き上げよう」, 「物価を科学的に調整しよう」)(北京大學, 4、17《七條》)

② “抑制通貨膨脹; 尊重知識, 尊重人才; 增加教育經費, 改善教師待遇;”(「インフレを抑制しよう」, 「知識を尊重し、人材を尊重しよう」, 「教育經費を増やし、教師の待遇を改善しよう」)(全國五四遊行口號)

③ “抑制物價上漲, 挽救農業危機”(「物価上昇を抑制し、農業危機を救おう」)(長沙, 5、4 遊行標語)

④ “公開緊俏商品——彩電、冰箱、自行車的優惠票証的分發情況”(「人気商品—カラーテレビ、冷蔵庫、自転車の優遇切符の発行状況を公開しよう」)(杭州, 5、4 請願要求)

⑤ “十年了, 老九還是老九”, “老九老九, 一無所有”(「十年たったが、九番目の鼻つまみ者はやはり九番目の鼻つまみ者」, 「九番目の鼻つまみ者、九番目の鼻つまみ者、何も持っていない」)(中國科學院, 5、16 遊行口號)

⑥ “不管白貓黑貓, 抓著老鼠就是好貓, 不管什麼主義, 人民幸福就是好主義”(「白猫であろうが黒猫であろうがネズミをとるのは良い猫であり、いかなる主義であろうが人民が幸福になるのは良い主義である」)(《開拓文學》雜誌, 5、16 遊行口號)

(4) 懲罰腐敗関係

① “反官僚, 反腐败, 反特權”(「反官僚、反腐败、反特權」)(北京, 4、27 大遊行共同口號)

② “廉潔的中國共產黨萬歲”（「清潔な中国共産党万歳」）（北方交通大學，4、27 遊行口號）

③ “必須旗幟鮮明地反對貪官”；“反貪官，救百姓”；“嚴懲貪官，清除腐敗”（「旗幟鮮明にして汚職官僚に反対しよう」、「汚職官僚に反対し、庶民を救おう」、「汚職官僚を厳しく罰し、腐敗を取り除こう」）（清華大學，4、27 遊行口號）

④ “打倒官倒；公佈領導人財產狀況；廉潔政府，懲處貪官汙吏；反對官僚主義；”（「官僚の横流しを打倒しよう」、「指導者の資産状況を公開しよう」、「清潔な政府よ、汚職官吏を懲罰せよ」、「官僚主義に反対しよう」）（全國五四遊行口號）

⑤ “官倒不滅，改革必敗”（「官僚の横流しを無くさなければ、改革は必ず失敗する」）（重慶，5、4 遊行標語）

⑥ “腐敗 = 愛滋病”（「腐敗はエイズである」）（中國檢定研究所，5、17 遊行橫幅）

⑦ “88年，官員吃喝410個億；教育經費350個億”（「88年において、官僚の飲み食いで410億、教育經費は350億」）（中央財經學院，5、17 遊行橫幅）

⑧ “導彈，導彈，瞄準腐敗”（「ミサイル、ミサイル、腐敗に照準を合わせよう」）（航天部，5、17 遊行標語）

.....

以上は陳が例示したスローガンの抜粋であるが、「改革開放」、「民主法治」、「社会公平」、「懲罰腐敗」をめぐる作られた当時のこれらのスローガンは1989年の民主化運動の時代的背景を表しており、劉のいうところの宣伝—煽動—行動—指令をたどる可能性も秘めていた。しかし、その可能性を打ち砕いたのが党の軍隊である人民解放軍を動員しての民主化運動鎮圧という鄧小平の「決断」であった。

毛亡き後、「鄧小平万歳」、「江沢民万歳」、「胡錦濤万歳」などというスローガンは登場しなかった。それは鄧小平時代、個人崇拜を禁じる「指示」が出されていたことと関係する。中国共産党中央委員会は1980年7月30日に「『個人を少なく宣伝する』を堅持するいくつかの問題に関する指示」（「中共中央关于坚持“少宣传个人”的几个问题的指示」）を下達した。その「(三)」は「新聞紙上ではマルクス・レーニン主義、毛沢東思想を多く宣伝し、社会主義の優越性と労、農、兵、知識分子の四つの現代化のために奮闘した成果を多く宣伝し、党の政策方針決議を多く宣伝し、指導者個人の重要な意義のない活動や講話を少なく宣伝しなければならない。」と指摘している。しかし、民主集中制という組織原則とそのトップにある総書記に3権（党の総書記、国の国家主席、軍の中央軍事委員会主席）を集中させている中国共産党の指導体制は常に「個人崇拜」を生む条件を備えている。江、胡と違い、ほぼ同時にその3権を掌握した習近平は「中華民族の偉大な復興」、「中国の夢」というスローガンを掲げている。為政者が「夢」を語るのは政権に対する求心力を高める意図がある。これは古今東西に共通しており、日本においても古くは池田勇人の「所得倍増」、新しくは安倍首相の「三本の矢」や「一億総活躍社会」などがある。日本と中国の相違は普通選挙の有無にあり、ある意味において国民が選挙を通じて為政者が掲げたスローガンを検証できるのが日本であり、中国においてはそれが中国共産党党内だけでなされるということである。

対日スローガンに話を戻せば、2014年2月、12期全人代常務委員会第7回会議において、9月

3 日を「中国人民抗日戦争勝利記念日」(中国人民抗日战争胜利纪念日)、12 月 13 日を「南京大屠殺犠牲者国家慰霊日」(南京大屠杀死难者国家公祭日)に制定した。その意味するところは「記念日」、「国家慰霊日」を通じて、「抗日戦争」の「記憶」を語り継ぐことにある。抗日戦争の「中流砥柱」(「中核」)ではなかった中国共産党がその歴史をいかに「解釈」し、その「記憶」をどのように伝えていくかは彼らとその都度制定すると考えられるスローガンに集約されるであろう。そのため、われわれはそのスローガンを読み解くことで中国共産党の対日政策の微妙な変化を見て取ることができるであろう。ただ、前述したネットに流通する非官製スローガンも忘れてはいけないであろう。なぜならば、そのスローガンもネットを管理する中国共産党が許容しているからである。

最後に参考として 1. 「中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利 70 周年記念大会における習近平のスピーチ」の日本語・中国語版、2. 「戦後 70 年の安倍談話」の日本語・中国語版、3. 馬英九の「中華民国抗戦勝利 70 周年記念および民国 104 年軍人節表彰大会」でのスピーチの中国語版を後掲する。戦後 70 年にあたる 2015 年における日中台の為政者のかの戦争に対する「解釈」と「記憶」を比較されたい。

参考資料

1. 中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利 70 周年記念大会における習近平のスピーチ

(中国語原文)

在纪念中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争胜利 70 周年大会上的讲话
(2015 年 9 月 3 日)

习近平

全国同胞们，
尊敬的各位国家元首、政府首脑和联合国等国际组织代表，
全体受阅将士们，
女士们、先生们，同志们、朋友们：

今天，是一个值得世界人民永远纪念的日子。70 年前的今天，中国人民经过长达 14 年艰苦卓绝的斗争，取得了中国人民抗日战争的伟大胜利，宣告了世界反法西斯战争的完全胜利，和平的阳光再次普照大地。

在这里，我代表中共中央、全国人大、国务院、全国政协、中央军委，向全国参加过抗日战争的老战士、老同志、爱国人士和抗日将领，向为中国人民抗日战争胜利作出重大贡献的海内外中华儿女，

致以崇高的敬意！向支援和帮助过中国人民抵抗侵略的外国政府和国际友人，表示衷心的感谢！向参加今天大会的各国来宾和军人朋友们，表示热烈的欢迎！

女士们、先生们，同志们、朋友们！

中国人民抗日战争和世界反法西斯战争，是正义和邪恶、光明和黑暗、进步和反动的大决战。在那场惨烈的战争中，中国人民抗日战争开始时间最早、持续时间最长。面对侵略者，中华儿女不屈不挠、浴血奋战，彻底打败了日本军国主义侵略者，捍卫了中华民族 5000 多年发展的文明成果，捍卫了人类和平事业，铸就了战争史上的奇观、中华民族的壮举。

中国人民抗日战争胜利，是近代以来中国抗击外敌入侵的第一次完全胜利。这一伟大胜利，彻底粉碎了日本军国主义殖民奴役中国的图谋，洗刷了近代以来中国抗击外来侵略屡战屡败的民族耻辱。这一伟大胜利，重新确立了中国在世界上的大国地位，使中国人民赢得了世界爱好和平人民的尊敬。这一伟大胜利，开辟了中华民族伟大复兴的光明前景，开启了古老中国凤凰涅槃、浴火重生的新征程。

在那场战争中，中国人民以巨大民族牺牲支撑起了世界反法西斯战争的东方主战场，为世界反法西斯战争胜利作出了重大贡献。中国人民抗日战争也得到了国际社会广泛支持，中国人民将永远铭记各国人民为中国抗战胜利作出的贡献！

女士们、先生们，同志们、朋友们！

经历了战争的人们，更加懂得和平的宝贵。我们纪念中国人民抗日战争暨世界反法西斯战争胜利 70 周年，就是要铭记历史、缅怀先烈、珍爱和平、开创未来。

那场战争的战火遍及亚洲、欧洲、非洲、大洋洲，军队和民众伤亡超过 1 亿人，其中中国伤亡人数超过 3500 万，苏联死亡人数超过 2700 万。绝不让历史悲剧重演，是我们对当年为维护人类自由、正义、和平而牺牲的英灵、对惨遭屠杀的无辜亡灵的最好纪念。

战争是一面镜子，能够让人更好认识和平的珍贵。今天，和平与发展已经成为时代主题，但世界仍很不太平，战争的达摩克利斯之剑依然悬在人类头上。我们要以史为鉴，坚定维护和平的决心。

为了和平，我们要牢固树立人类命运共同体意识。偏见和歧视、仇恨和战争，只会带来灾难和痛苦。相互尊重、平等相处、和平发展、共同繁荣，才是人间正道。世界各国应该共同维护以联合国宪章宗旨和原则为核心的国际秩序和国际体系，积极构建以合作共赢为核心的新型国际关系，共同推进世界和平与发展的崇高事业。

为了和平，中国将始终坚持走和平发展道路。中华民族历来爱好和平。无论发展到哪一步，中国都永远不称霸、永远不搞扩张，永远不会把自身曾经经历过的悲惨遭遇强加给其他民族。中国人民将坚

持同世界各国人民友好相处，坚决捍卫中国人民抗日战争和世界反法西斯战争胜利成果，努力为人类作出新的更大的贡献。

中国人民解放军是人民的子弟兵，全军将士要牢记全心全意为人民服务的根本宗旨，忠实履行保卫祖国安全和人民和平生活的神圣职责，忠实执行维护世界和平的神圣使命。我宣布，中国将裁减军队员额 30 万。

女士们、先生们，同志们、朋友们！

“靡不有初，鲜克有终。”实现中华民族伟大复兴，需要一代又一代人为之努力。中华民族创造了具有 5000 多年历史的灿烂文明，也一定能够创造出更加灿烂的明天！

前进道路上，全国各族人民要在中国共产党领导下，坚持以马克思列宁主义、毛泽东思想、邓小平理论、“三个代表”重要思想、科学发展观为指导，沿着中国特色社会主义道路，按照“四个全面”战略布局，弘扬伟大的爱国主义精神，弘扬伟大的抗战精神，万众一心，风雨无阻，向着我们既定的目标继续奋勇前进！

让我们共同铭记历史所启示的伟大真理：正义必胜！和平必胜！人民必胜！

(日本語訳文)

中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利 70 周年記念大会におけるスピーチ
(2015 年 9 月 3 日)

習近平

全国同胞の皆様、
尊敬する国家元首、政府首脳並びに国連をはじめとする国際組織の代表の皆様、
閲兵を受ける将校・兵士の皆様、
御来賓の皆様、同志の皆様、御友人の皆様、

本日は世界人民にとって永遠に記念すべき日です。70 年前の今日、中国人民は 14 年間にわたる艱難辛苦な闘争を経て、中国人民抗日戦争の偉大なる勝利を収め、世界反ファシズム戦争の完全な勝利を宣言し、平和の陽射しが再び大地を照らすようになりました。

ここで、中国共産党中央、全人代、国務院、全国政治協商会議、中央軍事委員会を代表し、抗日戦争に参加した全国の元戦士、愛国人士と抗日将校の皆様に対し、中国人民抗日戦争の勝利のため

に多大な貢献をなされた国内外の中国人民に対し、崇高なる敬意を表したいと思います。中国人民が侵略に抵抗することを支援し助けてくれた外国政府と国際社会の友人の皆様に対し、衷心より感謝の意を表したいと思います。本日の大会に御出席される各国の御来賓と軍人の皆様に対し、衷心より歓迎の意を表したいと思います。

御来賓の皆様、同志の皆様、御友人の皆様、

中国人民抗日戦争と世界反ファシズム戦争は、正義と邪悪、光と闇、進歩と反動の大決戦です。あの惨烈な戦争において、中国人民抗日戦争は開始時期が最も早く、最も長く続いたものです。侵略者と向き合って、中華民族は不撓不屈で、血を浴びて戦い、日本軍国主義侵略者を徹底的に破り、中華民族の5000年あまりに及ぶ発展の文明の成果を守り、人類の平和を守り、戦争史上の奇跡と中華民族の壮挙を成し遂げました。

中国人民抗日戦争の勝利は、近代以来中国が外敵の侵略に抵抗し取めた初めての完全勝利です。この偉大なる勝利は、中国で植民支配を行うという日本軍国主義の企みを徹底的に粉砕して、近代以来中国が外部からの侵略への抵抗にたびたび失敗したという民族の屈辱をすすぎました。この偉大なる勝利により、世界における中国の大国としての地位が改めて固められ、中国人民も平和を愛する世界人民からの尊敬を得られました。この偉大なる勝利は、中華民族の偉大なる復興の明るい未来を開き、古き中国が生き返る新たな道のりをスタートさせました。

あの戦争において、中国人民は大きな民族犠牲を払って世界反ファシズム戦争の東方主戦場を支え、世界反ファシズム戦争の勝利のために大きな貢献をしました。中国人民抗日戦争もまた国際社会から幅広く御支持を頂きました。中国人民は各国の人民が中国抗日戦争の勝利のためになされた御貢献を永遠に銘記いたします。

御来賓の皆様、同志の皆様、御友人の皆様、

戦争を経験した人間こそ、平和の尊さをより一層理解できます。我々が中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利70周年を記念する目的は、まさに歴史を銘記し、烈士たちのことを思い偲び、平和を大切に、未来を切り開くことです。

あの戦争はアジア、欧州、アフリカ、大洋州に戦火を及ぼし、軍民の死傷者は1億人も超え、そのうち中国の死傷者は3500万人、ソ連の犠牲者は2700万人を上回りました。歴史の悲劇を決して繰り返させないことは、かつて人類の自由、正義、平和を守るために犠牲になった英霊たちや、悲惨に虐殺された罪なき御霊への最もよい記念になります。

戦争は鏡のように、平和の尊さをより一層認識させてくれます。今日、平和と発展はすでに時代の流れとなっているが、世界は未だに太平とは言えず、戦争というダモクレスの剣は未だに人類の

頭上に吊るされています。我々は歴史を鑑にして、平和を守る決意を固める必要があります。

平和のために、人類運命共同体意識をしっかりと樹立しなければなりません。偏見や差別、恨みや戦争は災難と苦痛しかもたらしてくれません。相互尊重、平等共存、平和発展、共同繁栄こそ世間の正しい道です。世界各国は国連憲章の宗旨と原則を中核とする国際秩序と国際体系を共に守り、協力とウィンウィンの中核とする新しいタイプの国際関係を積極的に構築し、世界の平和と発展という崇高なる事業を共に推進していく必要があります。

平和のために、中国は終始平和発展の道を堅持してまいります。中華民族は従来平和を愛しています。どこまで発展を遂げても、中国は永遠に覇を称えず、永遠に拡張を行わず、自分がかつて経験した悲惨な遭遇を他の民族に押しつけるようなことは決していたしません。中国人民は世界各国人民との友好的な付き合い、中国人民抗日戦争並びに世界反ファシズム戦争勝利の成果を断固として守り、人類のために新たにより大きな貢献していくよう勤めてまいります。

中国人民解放軍は人民からなる軍隊で、全軍の将士は全身全霊に人民に奉仕するという根本的な宗旨を心に刻み、祖国の安全と人民の平和な生活を守るという神聖なる職責を忠実に全うし、世界平和を守るという神聖なる使命を忠実に遂行しなければなりません。ここで、中国は兵力の定員を30万人削減することを、宣言いたします。

御来賓の皆様、同志の皆様、御友人の皆様、

「初め有らざるは靡し、克く終わりあるは鮮なし」と申します。中華民族の偉大なる復興を実現させるには、世代を超える努力が必要です。中華民族は5000年以上の歴史を有する耀かしい文明を築きました。きっと一層耀かしい未来を築くことができるのです。

前進する道のりにおいて、全国各民族人民は中国共産党の指導の下で、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「三つの代表」の重要思想、科学的発展観を指導思想として、中国の特色ある社会主義の道に沿い、「四つの全面」という戦略布石に基づき、偉大なる愛国主義精神と偉大なる抗日戦争精神を発揚し、皆心をつにして、雨風に負けず、既定の目標を目指して引き続き奮い立ち、進んでいこうではありませんか。

歴史が教えてくれた次の偉大な真理を共に銘記しましょう。正義は必ず勝ちます！平和は必ず勝ちます！人民は必ず勝ちます！

(新華網日本語チャンネル)

2. 戦後70年の安倍談話

(日本語原文)

安倍内閣総理大臣記者会見

平成27年8月14日

8月は、私たち日本人にしばし立ち止まることを求めます。今は遠い過去なのだととしても、過ぎ去った歴史に思いを致すことを求めます。

政治は歴史から未来への知恵を学ばなければなりません。戦後70年という大きな節目に当たって、先の大戦への道のり、戦後の歩み。20世紀という時代を振り返り、その教訓の中から未来に向けて、世界の中で日本がどういう道を進むべきか。深く思索し、構想すべきである。私はそう考えました。

同時に、政治は歴史に謙虚でなければなりません。政治的、外交的な意図によって歴史がゆがめられるようなことは決してあってはならない。このことも私の強い信念であります。

ですから、談話の作成に当たっては、21世紀構想懇談会を開いて、有識者の皆様に率直かつ徹底的な御議論をいただきました。それぞれの視座や考え方は当然ながら異なります。しかし、そうした有識者の皆さんが熱のこもった議論を積み重ねた結果、一定の認識を共有できた。私はこの提言を歴史の声として受けとめたいと思います。そして、この提言の上に立って、歴史から教訓を酌み取り、今後の目指すべき道を展望したいと思います。

100年以上前の世界には、西洋諸国を中心とした国々の広大な植民地が、広がっていました。圧倒的な技術優位を背景に、植民地支配の波は、19世紀、アジアにも押し寄せました。その危機感が、日本にとって、近代化の原動力となったことは、間違いありません。アジアで最初に立憲政治を打ち立て、独立を守り抜きました。日露戦争は、植民地支配のもとにあった、多くのアジアやアフリカの人々を勇気づけました。

世界を巻き込んだ第一次世界大戦を経て、民族自決の動きが広がり、それまでの植民地化にブレーキがかかりました。この戦争は、1,000万人もの戦死者を出す、悲惨な戦争でありました。人々は「平和」を強く願い、国際連盟を創設し、不戦条約を生み出しました。戦争自体を違法化する、新たな国際社会の潮流が生まれました。

当初は、日本も足並みを揃えました。しかし、世界恐慌が発生し、欧米諸国が、植民地経済を巻き込んだ、経済のブロック化を進めると、日本経済は大きな打撃を受けました。その中で日本は、孤立感を深め、外交的、経済的な行き詰まりを、力の行使によって解決しようと試みました。国内の政治システムは、その歯止めたりえなかった。こうして、日本は、世界の大勢を見失っていきま

した。
満州事変、そして国際連盟からの脱退。日本は、次第に、国際社会が壮絶な犠牲の上に築こうとした「新しい国際秩序」への「挑戦者」となっていった。進むべき針路を誤り、戦争への道を進んで行きました。

そして70年前。日本は、敗戦しました。

戦後70年にあたり、国内外に斃れたすべての人々の命の前に、深く頭を垂れ、痛惜の念を表すとともに、永劫の、哀悼の誠を捧げます。

先の大戦では、300万余の同胞の命が失われました。祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦陣に散った方々。終戦後、酷寒の、あるいは灼熱の、遠い異郷の地にあつて、飢えや病に苦しみ、亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、東京をはじめ各都市での爆撃、沖縄における地上戦などによって、たくさんの市井の人々が、無残にも犠牲となりました。

戦火を交えた国々でも、将来ある若者たちの命が、数知れず失われました。中国、東南アジア、太平洋の島々など、戦場となった地域では、戦闘のみならず、食糧難などにより、多くの無辜の民が苦しみ、犠牲となりました。戦場の陰には、深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たちがいたことも、忘れてはなりません。

何の罪もない人々に、計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実。歴史とは実に取り返しつかない、苛烈なものです。一人ひとりに、それぞれの人生があり、夢があり、愛する家族があった。この当然の事実をかみしめる時、今なお、言葉を失い、ただただ、断腸の念を禁じ得ません。

これほどまでの尊い犠牲の上に、現在の平和がある。これが、戦後日本の原点であります。

二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。

事変、侵略、戦争。いかなる武力の威嚇や行使も、国際紛争を解決する手段としては、もう二度と用いてはならない。植民地支配から永遠に訣別し、すべての民族の自決の権利が尊重される世界にしなければならない。

先の大戦への深い悔悟の念と共に、我が国は、そう誓いました。自由で民主的な国を創り上げ、法の支配を重んじ、ひたすら不戦の誓いを堅持してまいりました。70年間に及ぶ平和国家としての歩みに、私たちは、静かな誇りを抱きながら、この不動の方針を、これからも貫いてまいります。

我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明してきました。その思いを実際の行動で示すため、インドネシア、フィリピンはじめ東南アジアの国々、台湾、韓国、中国など、隣人であるアジアの人々が歩んできた苦難の歴史を胸に刻み、戦後一貫して、その平和と繁栄のために力を尽くしてきました。

こうした歴代内閣の立場は、今後も、揺るぎないものであります。

ただ、私たちがいかなる努力を尽くそうとも、家族を失った方々の悲しみ、戦禍によって塗炭の苦しみを味わった人々の辛い記憶は、これからも、決して癒えることはないでしょう。

ですから、私たちは、心に留めなければなりません。

戦後、600万人を超える引揚者が、アジア太平洋の各地から無事帰還でき、日本再建の原動力となった事実を。中国に置き去りにされた3,000人近い日本人の子供たちが、無事成長し、再び祖国の土を踏むことができた事実を。米国や英国、オランダ、豪州などの元捕虜の皆さんが、長年にわたり、日本を訪れ、互いの戦死者のために慰霊を続けてくれている事実を。

戦争の苦痛を嘗め尽くした中国人の皆さんや、日本軍によって耐え難い苦痛を受けた元捕虜の皆さんが、それほど寛容であるためには、どれほどの心の葛藤があり、いかほどの努力が必要であったか。

そのことに、私たちは、思いを致さなければなりません。

寛容の心によって、日本は、戦後、国際社会に復帰することができました。戦後70年のこの機にあたり、我が国は、和解のために力を尽くしてくださったすべての国々、すべての方々に、心からの感謝の気持ちを表したいと思います。

日本では、戦後生まれの世代が、今や、人口の8割を超えています。あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子供たちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。しかし、それでもなお、私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。謙虚な気持ちで、過去を受け継ぎ、未来へと引き渡す責任があります。

私たちの親、そのまた親の世代が、戦後の焼け野原、貧しさのどん底の中で、命をつなぐことができた。そして、現在の私たちの世代、さらに次の世代へと、未来をつないでいくことができる。それは、先人たちのたゆまぬ努力と共に、敵として熾烈に戦った米国、豪州、欧州諸国をはじめ、本当にたくさんの国々から、恩讐を越えて、善意と支援の手が差しのべられたおかげであります。

そのことを、私たちは、未来へと語り継いでいかなければならない。歴史の教訓を深く胸に刻み、より良い未来を切り拓いていく、アジア、そして世界の平和と繁栄に力を尽くす。その大きな責任があります。

私たちは、自らの行き詰まりを力によって打開しようとした過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる紛争も、法の支配を尊重し、力の行使ではなく、平和的・外交的に解決すべきである。この原則を、これからも堅く守り、世界の国々にも働きかけてまいります。唯一の戦争被爆国として、核兵器の不拡散と究極の廃絶を目指し、国際社会でその責任を果たしてまいります。

私たちは、20世紀において、戦時下、多くの女性たちの尊厳や名誉が深く傷つけられた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、そうした女性たちの心に、常に寄り添う国でありたい。21世紀こそ、女性の人権が傷つけられることのない世紀とするため、世界をリードしてまいります。

私たちは、経済のブロック化が紛争の芽を育てた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる国の恣意にも左右されない、自由で、公正で、開かれた国際経済システムを発展させ、途上国支援を強化し、世界の更なる繁栄を牽引してまいります。繁栄こそ、平和の礎です。暴力の温床ともなる貧困に立ち向かい、世界のあらゆる人々に、医療と教育、自立の機会を提供するため、一層、力を尽くしてまいります。

私たちは、国際秩序への挑戦者となってしまった過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、自由、民主主義、人権といった基本的価値を揺るぎないものとして堅持し、その価値を共有する国々と手を携えて、「積極的平和主義」の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献してまいります。

終戦80年、90年、さらには100年に向けて、そのような日本を、国民の皆様と共に創り上げていく。その決意であります。

以上が、私たちが歴史から学ぶべき未来への知恵であろうと考えております。

冒頭、私は、21世紀構想懇談会の提言を歴史の声として受けとめたいと申し上げました。同時に、私たちは歴史に対して謙虚でなければなりません。謙虚な姿勢とは、果たして聞き漏らした声

がほかにもあるのではないかと、常に歴史を見つめ続ける態度であると考えます。

私は、これからも謙虚に、歴史の声に耳を傾けながら未来への知恵を学んでいく、そうした姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

私からは以上であります。

(中国語訳文)

安倍内閣总理大臣記者招待会

2015年8月14日(星期五)

(暫译)

(开场发言)

8月，是一个让我们日本人少时驻足的月份，让我们回到过去，思考历史。

政治应从历史汲取走向未来的智慧。在战后70年这个重要的节点，我们应回顾走上那场战争之路的过程、战后发展的历程，20世纪那个时代。从那些教训出发，深刻思考、仔细构想世界中的日本在面向未来之时，应该走怎样的道路。

同时，政治应谦虚地面对历史，绝不能因政治或是外交目的来歪曲历史。这也是我的坚定信念。

因此，为撰写谈话，我召开了21世纪构想恳谈会，邀请有识之士开展坦诚彻底的讨论。当然每一位的立场和想法各不相同，然而通过这些有识之士反复热烈的讨论，得到了一定的共识。我将这一提议作为历史的声音，并希望在此基础上，从历史汲取教训，展望今后应走的发展之路。

一百多年前，以西方国家为主的各国的广大殖民地遍及世界各地。十九世纪，以技术的绝对优势为背景，殖民统治亦波及到亚洲。毫无疑问，其带来的危机感变成日本实现近代化的动力。日本首次在亚洲实现立宪政治，守住了国家独立。日俄战争鼓舞了许多处在殖民统治之下的亚洲和非洲的人们。

经过席卷全世界的第一次世界大战，民族自决运动的扩大阻止了此前的殖民地化。那场战争造成了一千多万死难者，是一场悲惨的战争。人们渴望和平，创立国际联盟，创造出不战条约，诞生出使战争本身违法化的新的国际社会潮流。

当初，日本也统一了步调。但是，在世界经济危机发生后，欧美各国以卷入殖民地经济来推动区域经济集团化，从而日本经济受到重大打击。此间，日本的孤立感加深，试图依靠实力解决外交和经济上的困境。对此，国内政治机制也未能予以阻止。其结果，日本迷失了世界大局。

满洲事变以及退出国际联盟——日本逐渐变成国际社会经过巨大灾难而建立起来的新的国际秩序的挑战者，该走的方向有错误，而走上了战争的道路。

其结果，七十年前，日本战败了。

正当战后七十周年之际，我在国内外所有死遇者面前，深深地鞠躬，并表示痛惜，表达永久的哀悼之意。

由于那场战争失去了三百多万同胞的生命。有不少人在挂念祖国的未来、祈愿家人的幸福之中捐躯。战争结束后，也有不少人在严寒或炎热的遥远异国他乡苦于饥饿或疾病之中去世。广岛和长崎遭受的原子弹轰炸、东京以及各城市遭受的轰炸、冲绳发生的地面战斗等等，这些导致了许许多多的老

百姓悲惨遇难。

同样，在与日本兵戎相见的国家中，不计其数的年轻人失去了原本有着未来的生命。在中国、东南亚、太平洋岛屿等成为战场的地区，不仅由于战斗，还由于粮食不足等原因，许多无辜的平民受苦和遇难。我们也不能忘记，在战场背后被严重伤害名誉与尊严的女性们的存在。

我国给无辜的人们带来了不可估量的损害和痛苦。历史真是无法取消的、残酷的。每一个人都有各自的人生、梦想、所爱的家人。我在沉思这样一个明显的事实时，至今我仍然无法言语，不禁断肠。

在如此重大损失之上，才有现在的和平。这就是战后日本的出发点。

再也不要重演战祸。

事变、侵略、战争。我们再也不应该用任何武力威胁或武力行使作为解决国际争端的手段。应该永远跟殖民统治告别，要实现尊重所有民族自决权利的世界。

我国带着对那场战争的深刻悔悟，作出了如此发誓。在此基础上，我国建设自由民主的国家，重视法治，一直坚持不战誓言。我们对七十年以来所走过的和平国家道路默默地感到自豪，并且今后也将继续贯彻这一坚定的方针。

我国对在那场战争中的行为多次表示深刻的反省和由衷的歉意。为了以实际行动表明这种心情，我们将印尼、菲律宾等东南亚国家以及台湾、韩国、中国等亚洲邻居人民走过的苦难历史铭刻在心，战后一直致力于这些国家的和平与繁荣。

这些历代内阁的立场今后也将是坚定不移的。

不过，即使我们付出多么大的努力，失去家人的悲哀和在战祸中饱受涂炭之苦的记忆也决不会消失。因此，我们要将下述事实铭刻在心。

超过六百万人的战后回国者从亚洲太平洋的各地总算平安回国，成为重建日本的原动力。在中国被残留的接近三千人的日本儿童得以成长，再次踏上祖国土地。美国、英国、荷兰、澳大利亚等国家的被俘的人们，长期以来访问日本，祭奠双方的战死者。

饱尝战争痛苦的中国人、以及曾经被俘并遭受日军施加难以忍受痛苦的人做得如此宽容，他们内心的纠葛究竟多么大，付出的努力又是多么大？

我们必须将此事挂在心上。

战后，如此宽容的胸怀使得日本重返国际社会。值此战后七十年之际，我国向致力于和解的所有国家、所有人士表示由衷的感谢。

现在我国国内战后出生的一代已超过了总人口的80%。我们不能让与战争毫无关系的子孙后代担负起继续道歉的宿命。尽管如此，我们日本人要超越世代，正面面对过去的历史。我们有责任以谦虚的态度继承过去，将它交给未来。

我们的父母一代以及祖父母一代在战后废墟和贫困深渊中维系了生命。他们带来的未来是可以让我们一代继承，且交给我们下一代。这不仅是前辈们不懈努力的结果，也是曾经作为敌国激烈交火的美国、澳大利亚、欧洲各国以及许多国家超越恩仇提供善意和支援的结果。

我们必须将此事告诉未来的一代。将历史的教训深深地铭刻在心，开拓更加美好的未来，为亚洲及世界的和平与繁荣而尽力。我们担负着这一重大责任。

我们继续将谋求以实力打开僵局的过去铭刻在心。正因为如此，我国继续奉行的是，任何争端都应该尊重法治，不是行使实力而是以和平与外交方式加以解决的原则。这是我国今后也将坚持并向世界各国推广的原则。我国作为经历过原子弹轰炸的唯一国家，追求实现核不扩散和彻底销毁核武器，在

国际社会上履行自己的责任。

我们继续将在二十世纪的战争期间众多女性的尊严与名誉遭受严重伤害的过去铭刻在心。正因为如此，我国希望成为一个国家要时刻体贴女性的心。我国将在世界领先努力将二十一世纪成为不让女性人权遭受侵害的世纪。

我们继续将区域经济集团化促发纠纷萌芽的过去铭刻在心。正因为如此，我国努力发展不受任何国家恣意影响的自由、公正、开放的国际经济体制，加强对发展中国家的支援，牵引走向更加繁荣的世界。繁荣才是和平的基础。应对暴力温床的贫困，为全世界所有人享受医疗和教育以及自立的机会而做出更大的努力。

我们继续将我国曾经当过国际秩序挑战者的过去铭刻在心。正因为如此，我国坚定不移地坚持自由、民主主义、人权这些基本价值，与共享该价值的国家携手并进，高举“积极和平主义”的旗帜，为世界的和平与繁荣做出较之以前更大的贡献。

我们有决心，面向战后八十年、九十年以及一百年，与我国国民各位共同努力建设如上所述的日本。以上就是我们应从历史学习走向未来的智慧。

在发言开头，我提到了将 21 世纪构想恳谈会的提议作为历史的声音。同时我们也应谦虚地面对历史。何为谦虚的态度，我认为就是始终保持凝视历史的态度，是否有我们未曾听到的、被遗漏的声音。今后，我也会谦虚地倾听历史的声音，学习通向未来的智慧，并始终保持这一态度。

我的开场发言到此结束。

(首相官邸ホームページ)

3. 馬英九の「中華民國抗戰勝利 70 周年記念および民國 104 年軍人節表彰大会」でのスピーチ

(中国語版)

馬英九在「中華民國紀念抗戰勝利七十週年暨民國 104 年軍人節表揚大會」上的講話
中華民國 104 年 09 月 02 日

今天，我以虔敬的心情，主持「中華民國紀念抗戰勝利七十週年暨民國 104 年軍人節表揚大會」。

剛才我頒發了「國軍楷模」、「國軍模範團體」、「敬軍模範」以及「全國民防教育傑出貢獻獎」等 4 個獎項，我要對獲獎的國軍單位與官兵表達祝賀之意。同時，我也要恭喜獲得「敬軍模範」以及「全國民防教育傑出貢獻獎」的國軍同仁與社會賢達。

今(104)年是抗戰勝利七十週年，七十年前的今天，日本代表在東京灣美國戰艦密蘇里號上簽署降書、向同盟國無條件投降，正式結束第二次世界大戰。剛才我也頒贈了 8 位曾經參與抗戰的前輩們「抗戰勝利紀念章」。為了感謝國內外的抗戰前輩，從今年 7 月起，我們開始頒發「抗戰勝利紀念章」，到目前為止，已經發送了 6,653 枚，其中大陸地區有 705 位申請，已經發放了 402 枚。

我在這裡要代表政府與全國同胞，向所有抗戰的前輩們表達最高的敬意與最深的感激，各位的犧牲與奉獻，換來了國家的生存與民族的尊嚴，這段歷史，中華民國永遠不會忘記！全世界愛好和平的人士也永遠不會忘記！

現在，我要從世界、中華民國以及臺灣三個層面，來談談紀念對日抗戰勝利與臺灣光復的意義。

首先，八年抗戰不但挽救了中華民國、光復了臺灣，也幫助同盟國贏得第二次世界大戰。

八年抗戰是中華民族歷史上規模最大、死傷最多、影響最深的民族保衛戰。國軍以落後的裝備與訓練，對抗先進精良的日軍，歷經重大會戰 22 次，大型作戰 1,100 多次、小型作戰 3 萬 8 千多次；官兵傷亡 322 萬人，共有 268 位將領殉國，百姓死傷更在 2,000 萬人以上。但是國軍不妥協、不投降，堅持到底，終於獲得最後勝利。

民國 30 年 12 月珍珠港事變後，我國對日宣戰，與英、美結盟抗日。國軍也承擔責任，到境外作戰，其中最著名的就是民國 31 年 4 月，國軍新 38 師所屬的 113 團劉放吾團長率領全團八百官兵，在緬甸擊潰數倍兵力的日軍，解救了 7,000 多位英軍、記者及傳教士，轟動中外，史稱「仁安羌大捷」，這更是國軍境外作戰的首次大捷。參加這場戰役的英國前陸軍上尉費茲派翠克先生今天也在現場，他曾經出版三本書記錄這段歷史，強調中華民國當年身陷苦戰，仍然援助友邦，力克強敵的故事。

抗戰期間，美國總統羅斯福曾經在軍事及外交上大力協助我國。他說過：「二次大戰勝利的一個關鍵，就是中國全力堅持對日作戰，避免了日本與德國會師，將戰場連成一線」。英國牛津大學教授芮納·米德（Rana Mitter）在他 2014 年專書《被遺忘的盟友》序言中也強調：「中國的抗戰是在毫無勝算之下，堅忍不拔、不顧一切、奮戰到底的英勇故事。證明外國記者和外交官一再唱衰中國，認為中國必將滅亡的預言完全錯了。這個貧窮、低度開發的國家，孤軍奮鬥，力抗日本 4 年，牽制了 80 萬全球最現代化的雄師勁旅；同盟國能在歐、亞戰場同時作戰，節節勝利，多靠中國與日本纏鬥不休」。這些都說明了我國抗戰的艱辛與血淚，以及對二戰勝利的卓越貢獻。

從第二次世界大戰結束到現在的 70 年間，國共內戰、韓戰與東西方的冷戰相繼登場，國際情勢發生巨變，使得中華民國對日抗戰的英勇奮鬥以及對二戰的貢獻往往被國際社會所忽略。隨著時代變遷，檔案開放，史觀也日趨多元，這段歷史在 70 年後的今天終於逐漸得到應有的重視，不再「被遺忘」了。

接下來，我想和各位談談抗戰對中華民族的意義。近年來，關於「誰領導抗戰」的議題，成為國內外關注的焦點。長期以來，中共自稱領導抗戰，共軍是「中流砥柱」，忽視當年國民政府領導全國軍民八年抗戰的歷史與貢獻，我們感到非常遺憾。

中共曾參與抗戰，這一點我們從不否認；但中共並非居於主導地位，而是輔助地位，也是事實。民國 26 年 7 月 7 日「盧溝橋事變」後，蔣中正委員長在 7 月 17 日發表「廬山談話」，號召全國軍民：「地無分南北，年無分老幼，無論何人，皆有守土抗戰之責任」。9 月 22 日公布的「共赴國難宣言」，中共響應政府號召投入抗戰，經軍事委員會收編為第八路軍與新四軍，之後八路軍改為第十八集團軍。但幾乎同一時間，中共就確定了「七分壯大、二分應付、一分抗日」的發展策略。

十年前，抗戰勝利 60 週年的時候，中共曾經把抗戰劃分為「正面戰場」及「敵後戰場」，肯定國民政府領導正面戰場，但強調共軍在敵後戰場的貢獻。事實上，隨著大量史料公開，很清楚的可以看到，抗戰期間不論正面或敵後，國民政府始終居於領導地位。

在抗戰期間的 22 次重大會戰當中，中共唯一參與的所謂「正面作戰」，是民國 26 年 9 月太原會戰當中的一場「平型關戰鬥」，動員了第 115 師 1 個團兵力殲滅日軍 500 餘人的補給部隊。此後，中共就轉往敵後從事游擊戰，如所謂「百團大戰」，採取盡量避免與日軍正面作戰策略，保存實力，併吞地方部隊，甚至攻擊國軍，擴大地盤。

抗戰 8 年 268 位殉國的將領中，僅有 1 位前八路軍的少將副參謀長左權屬共產黨籍，這與國軍其他

267 位將領的慘重犧牲兩相對照，抗戰是誰領導的，已經十分清楚。更何況所有的重大會戰與大型作戰都是國軍主導，抗戰勝利後，東京灣盟軍受降典禮由國軍參加、中國戰區國內外受降典禮也全部由國軍主持。

歷史真相只有一個，抗戰是國民政府蔣中正委員長領導全國軍民艱苦奮鬥的成果。沒有抗戰勝利，就沒有臺灣光復；沒有國軍犧牲奮鬥，也不會有今天中華民國自由、民主、繁榮的生活。我身為中華民國總統，有責任將這段國家重要歷史清楚的交代，並傳承給後代，不容抹煞。

最近，我一再呼籲，面對第二次世界大戰的歷史，日本政府應該正視史實，就事論事。七年多來，海峽兩岸在「九二共識、一中各表」的基礎上，開始了歷史性的和解與合作，我們深切盼望，在兩岸交流空前頻繁的此刻，大陸當局能夠以同樣的原則，看待抗戰。對日抗戰將永遠銘刻在中華民族歷史上，前人「留取丹心照汗青」，後人更應「不容青史盡成灰」。兩岸人民同屬中華民族，都是炎黃子孫，都應該忠於抗戰歷史，永誌不忘。大陸當局如果能主動以「面對歷史，實事求是；面對老兵，將心比心」的態度，公開表示「八年抗戰由國民政府領導、中共參與輔助」，既符合歷史，也展現高度，這樣才能獲得海內外華人的肯定。

第三，我想與各位談談臺灣人民的抗日與抗戰。歷史上，臺灣人民的抗日與抗戰，要比大陸人民至少早 30 年。我們先從抗日談起。1894 年甲午戰爭清廷戰敗，次年被迫簽訂《馬關條約》，割讓臺灣給日本，消息傳出，舉國震驚，全臺悲憤。當年進京趕考的全國舉人「不畏斧鉞之誅」，以「公車上書」提出「棄臺民即散天下」的警告。臺籍進士丘逢甲的著名詩句「宰相有權能割地，孤臣無力可回天」，以及次年又寫下的「四百萬人同一哭，去年今日割臺灣」，充分反映了當時臺灣人的痛心與無奈。臺灣反侵略、反殖民的武裝抗日行動，從 1895 年 5 月，日軍在北臺灣澳底登陸就開始，到 1915 年臺南爆發的「噶吧哖（西來庵）事件」，已長達 20 年之久，之後再轉為非武裝抗日。這在世界殖民史上，是相當罕見的抗爭實例。

抗日先烈先賢中，包括成立「臺灣民主國」的丘逢甲、劉永福；組織新竹義勇軍的吳湯興、徐驥、姜紹祖；台中的林朝棟；彰化的吳彭年、雲林的李品三、屏東的蕭光明；領導游擊戰的「抗日三猛」林少貓、簡大獅、柯鐵虎；發動臺南「噶吧哖事件」的余清芳、羅俊、江定；主導「霧社事件」的原住民莫那魯道；在民國成立後返臺參與或協助起義的羅福星、林祖密等，這些先烈先賢的抗日行動，我們永遠不會忘記。在日軍據臺的第一年，各地激戰連連，日軍費時 6 月、多次增兵才結束「乙未戰爭」。日本的近衛師團長北白川宮能久親王（中將）以及近衛步兵第 2 旅團長山根信成少將都在戰爭中死亡，戰鬥情況激烈得無法想像，根據學者估計，臺灣軍民死亡人數超過十萬人。日本總督府民政長官後藤新平在 1921 年所寫的《日本殖民政策一斑》一書中也曾坦承，光是 1898 年到 1902 年，就利用總督府頒布的「匪徒刑罰令」誘殺了臺灣抗日志士達 11,950 人。

日本開始殖民統治後，臺灣抗日行動一直持續，除了武裝抗日外，還有以新聞、教育、文化等方式，推動非武裝抗日、爭取自治民主、設立議會的先進，包括林獻堂、蔣渭水、廖進平、翁俊明、連雅堂、蔡培火、簡吉等以及後期的蔡忠恕、李建興等的地下運動。臺灣的抗日運動，不但持久，而且波瀾壯闊，令人動容。

再談抗戰。抗戰時期，李友邦將軍組編「臺灣義勇隊」在閩浙沿海游擊抗日；翁俊明領導「臺灣革命同盟會」；李萬居等臺籍人士參與「國際問題研究所」；丘念台組織廣東「東區服務隊」；林正亨加入緬甸遠征軍；謝東閔、黃朝琴、連震東等先賢也貢獻心力，他們志在光復臺灣，同樣令人感動不已。

先烈先賢的做法雖各有不同，但都志在追求自由與民主。更重要的是，他們都證明：臺灣當時雖然是日本殖民地，但他們效忠的祖國並不是日本。臺灣同胞抗日決心非常堅定，充分展現了臺灣的主體性。

最近，國內關於臺灣人的抗日與抗戰有一些討論。對此，我必須表達我的態度：我絕對尊重不同族群的歷史記憶，也明白在歷史格局當中，人民面對時代與命運，有許多無奈與感傷。但是，臺灣多少前輩，前仆後繼，為了反侵略與反殖民付出心血、甚至生命，史實俱在，不容選擇性遺忘，更不能讓子孫不知道這一段重要的歷史。如同于右任先生的詩句：「不容青史盡成灰」，這就是我的基本態度，也是中華民國面對國史應有的態度。而我們講述這段歷史，是為先烈先賢發聲，也讓當代社會對這段重要歷史留下見證，這是我無可迴避的職責。

8月14日，日本安倍晉三首相發表戰後七十周年談話，提及日本「侵略」與「殖民」的錯誤，以及日本「對婦女尊嚴與榮譽的嚴重侵害」。中華民國政府相信日本願意反省檢討，但更希望日本未來能夠做得更多、更好。

我要再次重申，我們紀念抗戰勝利暨臺灣光復七十周年，是基於「侵略的錯誤或可原諒，歷史的真相不能遺忘」的信念。我們不是要挑起仇恨，而是要譴責侵略；不是要炫耀勝利，而是要追求和平。

敬祝各位貴賓、官兵和寶眷們，身體健康、家庭幸福、萬事如意，中華民國國運昌隆，謝謝大家！